

## 第22回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録

1. 日時 平成21年9月7日(月) 10:00～11:00

2. 場所 (社)日本電気協会 4階 D会議室

3. 出席者(敬称略,順不同)

出席委員:湯原議長(日本機械学会 発電用設備規格委員会 委員長),関村(日本電気協会 原子力規格委員会 委員長),宮野(日本原子力学会 標準委員会 委員長),小山(日本機械学会 発電用設備規格委員会 副委員長),森下(日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長),新田(日本電気協会 原子力規格委員会 副委員長),越塚(日本電気協会 原子力規格委員会 幹事)

常時参加者:大島(原子力安全・保安院),佐々木(内閣府・角田代理),佐藤(原子力安全基盤機構),釘宮(原子力安全基盤機構),波木井(電事連),渡辺(電事連・高橋代理),瀧口(日本建築学会),百々(日本原子力技術協会)

オブザーバー:河井(日本原子力技術協会),山口(火力原子力発電技術協会),伊澤(日本電機工業会 四柳代理),宮口(日本機械学会)

日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局 高柳

日本原子力学会 標準委員会 事務局 岡村,谷井

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局 牧野,高須,大東,田村,吉田,井上

(28名)

4. 配付資料

資料 No.22-1 第21回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録(案)  
資料 No.22-2 学協会規格の規制への活用の現状と今後の取組みについて  
資料 No.22-3 原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要  
資料 No.22-4 JSME/ASME 神戸会議について

参考資料-1 原子力関連学協会規格類協議会 名簿  
参考資料-2 原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱  
参考資料-3 日本機械学会 発電用設備規格委員会 制定規格  
参考資料-4 日本原子力学会標準一覧表  
参考資料-5 日本電気協会 原子力規格委員会 策定規格

5. 議事

(1)常時参加者交替と代理出席の紹介及びオブザーバーの紹介

事務局より,参考資料-1に基づき常時参加者の交替及び代理出席者について報告があった。

また、オブザーバー参加について報告があり、承認された。

## (2) 前回議事録確認

事務局より、資料 No.22-1 に基づき、前回議事録(案)(事前に配付しコメントを反映済み)について紹介があり、原案通り承認された。

## (3) 報告事項

### 1) 学協会規格の規制への活用の現状と今後の取り組みについて

大島常時参加者(原子力安全・保安院)より、資料 No.22-2 に基づいて、学協会規格の規制への活用の現状と今後の取り組みについて説明があり、下記の補足説明があった。

- ・現在、基本政策小委員会において、学協会規格の規制への活用も含めた規制全般の総括的な検討をしている所であり、次回の基本政策小委(9/10)で、これまでの議論について取りまとめ、審議する予定である。その中で、ここ数年間に規制基準として用いることができる学協会規格の整備が大きく進展したが、一方では発電炉以外の分野では今後の整備が期待される規格が多く残されていると評価している。また、2007年6月の原子力安全基盤小委員会で、協議会から学協会規格類の策定計画を報告して頂いているが、それに対する保安院側の取りまとめが必ずしも明確でなかったと認識している。保安院としては JNES とも協力して、規制側の規格に対するニーズを一度整理したいと考えている。規制側のニーズを取り纏めて次回の基盤小委員会で審議をして行きたいと考えている。次回の協議会は12月になると思うが、その前に整理が出来、可能であれば3学協会と調整をさせて頂ければと思っている。
- ・それともう一点、参考としての話だが、JEAC4111 原子力発電所の品質保証規程の技術評価書の公衆審査において、委員会規定の委員選定の基準に関するコメントがあった。具体的には一番下部の作業部会・検討会の委員構成比率に関するもので、同一業種が過半数を超えないあるいは1/3を超えないという規定がないのはどうしてか等、細かいコメントがあった。作業部会での役割として専門性を考慮して選定されていること、選定に当たってその上位部会で承認されること等、手続きに従って実施されているので問題はないと思っているが、「手続きに従って」運用されているという所は大いに関心が集まる所なので注意して頂きたい。公衆審査でそのようなコメントがあったという事を紹介しておきたい。主な質疑・コメントは下記の通り。
- ・次回の基本政策小委で全体取り纏めの審議をされる予定との事だが、次回の学協会協議会に報告頂けるのか。  
遅くとも12月前には全体の整理が出来、中間取り纏めのものができると思っている。まとめれば、説明させて頂きたい。
- ・基本政策小委員会の報告書は大変重要な事が含まれているので、よく読んで、幹事会も出来たことでもあり、我々なりにブレイクし課題を検討して次回の協議会で議論出来れば

と思っている。

- ・規格の体系化の整備計画として 2 年前に 3 学協会側から提出した資料について見直すのが良いかと思っている。
- ・今の件は基盤小委で検討するという事か。  
一義的には基盤小委と思っているが、炉小委とも関係あるのでまだどちらをメインにするかは決めていないが、今までの経緯を考えると基盤小委で議論し、炉小委の方には報告という形を考えている。
- ・3 学協会と保安院だけでなく、JNES の役割の重要性が高まって来ている。そこをどう考え入れ込んで議論を深めていくか。3 学協会だけではなく、少し広がった議論を上手く進めていく事について、3 学協会と噛み合った議論をお願いしたい。  
言われる通り、JNES の役割は益々高まってきている。全般について見てもその役割が変わっており、より主体的な取り組みが出来ないかさらに検討を進めるべきだと思われる。
- ・資料 No.22-3 の課題・論点(13 頁)に記載がある様に、JNES の役割分担についても含めてぜひ議論をお願いしたい。

## 2) 規格類協議会幹事会からの報告

電気協会事務局より、資料 No.22-2 に基づいて、規格類協議会幹事会からの報告があった。主な質疑・応答は下記の通り。

- ・原子力学会としては、添付-2 議事録案のコメントの通り、課題に応じて適切な人選をしたいと考えている。今回はテーマを設定せずに議論された訳だが、次回の幹事会で何を議論するかについては、先程話があった保安院から出される基盤小委での纏めと、資料 No.22-3 添付 4「原子力関係の学協会規格類の策定計画について」の見直しを行うという事であればそれに合った人選を行いたい。テーマが決まれば連絡を頂きたい。
- ・もう一点、3 学協会だけが議論されているが、それ以外に参加したいという学会があるかも知れないので、テーマに応じて他の学会にも声を掛けて頂きたい。参加するかしないかは問題ではなく、声を掛けることだけはして欲しい。  
参加者が膨れ上がり 3 学協会の本来の主旨からずれない様に、幹事会で考えて頂きたい。何故この 3 つの学協会が協調してやっというかという原則の中で考え検討して欲しい。
- ・事務局が決めてそれを各学協会事務局に連絡する事で良いのか。  
幹事会をいつ、何をやるか明確にしてもらった上で対応したい。幹事会は決定機関ではなく決定はあくまで協議会である。先程の 2 点について議論するとなればその議論をするための人選を行う。
- ・幹事会から協議会への提案は委縮せず積極的に実施してほしい。運営上有効な事は幹事会から積極的に提案して頂きたい。

### 3) JSME/ASME 神戸会議について

森下氏(日本機械学会)より,資料 No.22-3 に基づいて,JSME/ASME 神戸会議について紹介があった。

## 6.その他

### 1) IAEA IRRS について

大島常時参加者(原子力安全・保安院)より,IAEA IRRS に関する説明があった。

保安院は2年前にIAEAの統合規制評価サービス(IRRS)というReviewを受け,28個のRecommendation / Suggestionを受けた。来年2月頃にフォローアップミッションを予定しており,現在はIAEAと事務的な打ち合わせを行っているところである。

IRRSのreviewで,学協会規格をより迅速に採用する仕組みを考える様に,というコメントがあり,その対応を図っていく必要がある。協議会や各学協会と個別に連絡を取って調整させて頂いているが,その様なコメントもあるので我々規制側のニーズをより明確にしたいと考えている。これまでは具体的な調整が不十分だったのではないかと反省もし,今後は各学協会,協議会を通じて互いの意見の調整をしたいと思っているため,宜しくご協力をお願いしたい。

### 2)次回開催日

次回の協議会開催日時は,12月4日(金)10:00からとした。

以上